

学生海外調査研究	
19世紀末フランス象徴主義美術の制作・受容 -E.ヴューヤール及びE.カリエールを中心に-	
氏名	原田 佳織 比較社会文化学専攻
期間	2014年8月18日～2014年9月19日
場所	フランス、パリ
施設	オルセー美術館資料室、プティパレ・パリ市立美術館資料室、ロダン美術館資料室、国立美術館資料室、国立美術館文書館、パリ古文書館、学士院図書館、ソルボンヌ大学図書館、国立美術史研究所図書館、フランス国立図書館

## 内容報告

### 1. 調査の目的

報告者は、19世紀末西欧の芸術を広く特徴づけた象徴主義の思潮について、同時期のフランス美術にみられる象徴表現を、芸術形式の特徴及び同時代の歴史社会的背景から研究することをテーマとしている。博士論文では、とりわけ「人生の諸段階」の主題をめぐって19世紀後半フランスの象徴主義美術の諸相を明らかにしたいと考えている。この研究において、本調査のテーマとする画家ウジェーヌ・カリエール（1849-1906）によって1890年代に制作された、同題の連作（プティパレ・パリ市立美術館）は当初から中心的な対象であった。

これまでの研究では、19世紀最後の十年間に特徴的テーマを示す作品を制作した画家 E.ヴューヤール（1868-1940）をとりあげ、ヴューヤールにおける象徴主義美学の成立とその作品の同時代受容について、修士論文『エドゥアール・ヴューヤールによる1890年代室内画の展開 象徴主義美学との関わりをめぐって』で明らかにした<sup>1</sup>。ここでは、画家の日記を作品と並行してたどることによって象徴主義美学の成立過程を明らかにし、また、初期作品に対する批評を個々の執筆者の社会的、政治的、美学的立場に照らして分析することによって、同時代の象徴主義思潮との相互作用を検証した。

今回の調査の目的は、個々の作品の制作形式やその受容状況から、象徴主義的表現のあり方を考察してゆくために、とりわけ絵画作品における人物表現と装飾画の制作をめぐって、作品の制作と受容をとり巻く図像・文献資料を収集することであった。資料の種類を挙げると、一次資料として、習作を含めた作品の図像資料、また、画家自身あるいは同時代人物による著作物や書簡、新聞・雑誌などの文献資料、さらに作品の来歴を示す競売や展覧会に関わる資料、そして現地図書館で閲覧可能な研究などの二次文献が含まれる。美術史研究を進めてゆくために必要なこれらの資料を収集するには、現地でのまとまった調査研究が不可欠であった。また付け加えると、今回初めて訪れるアーカイブなどで、研究に必要な資料を調査し入手する手法を獲得する、ということも本調査の大きな目的である。

### 2. 調査内容と成果

本調査は、フランス共和国パリ市にて、次の五つの美術館資料室・文書館と五つの図書館・古文書館を訪問して行なった。（①オルセー美術館資料室 ②プティパレ・パリ市立美術館資料室 ③ロダン美術館資料室 ④国立美術館資料室 ⑤国立美術館文書館 ⑥パリ古文書館 ⑦学士院図書館 ⑧ソルボンヌ大学図書館 ⑨国立美術史研究所図書館 ⑩フランス国立図書館<フランソワ・ミッテラン館、リシュリュー館版画写真部門、アルスナル館>）調査の内容を大きく分けると、美術館資料室での調査と図書館での調査に二分される。美術館資料室（①②③④）では、作品に関連する図像・文献資料、画家カリエール自身による原稿や書簡などの手稿、そして同時代の新聞・雑誌に掲載された記事を対象として調査を行なった。図書館（⑧⑨⑩）では、19世紀末の雑誌・書籍などの一次文献と、先行研究や博士論文などの二次文献を調査した。それに加えて、絵画の来歴に関連する記録や、画家ヴューヤールの日記といった特定の資料を閲覧するために、個別の資料を所有している文書館・図書館（⑤⑥⑦）を訪れた。

以下、各館における調査の概要とその成果を記す。

#### 2.1 オルセー美術館資料室

オルセー美術館資料室（Documentation de la conservation, Musée d'Orsay）では、作者ごとに整

理保管されている作品関連資料と、資料室が保管している文書集に含まれる、画家カリエール関連の一次資料集を調査した。同資料室では主として、オルセー美術館の対象とする1848年から1914年に制作された作品に関わる資料が、絵画素描、彫刻、装飾芸術、建築、写真といった制作形式ごと、作家ごとに整理され、さらに文献資料、図像資料がその種類ごとに細分化、保管されている。まず作品関連資料のうち、今回調査の対象としたのは、画家カリエールによる装飾画及び伝統的テーマ、すなわち寓意的、歴史的、神話的、宗教的テーマを扱った絵画に関する資料と、肖像画、自画像作品に関する資料である。ここでは、「人生の諸段階」のテーマをめぐる作品として、同題の連作（パリ十二区庁舎祝祭の間のための装飾、未完）及び1894-1902年頃に制作された三連画を中心として、各主題に関する図像・文献資料を収集した。

二つ目として挙げられる、同資料室が保管しているカリエールの一次資料集は、今回の調査の最も重要な対象のひとつであった<sup>2</sup>。画家の手紙や記事原稿、そして画家の家族に関わる書簡や記事などがまとめられたこの資料集には、近年公開された資料も含まれ、いまだ活字化されておらず内容の知られていないものも多いからである。このことは、画家カリエールに関する研究そのものが少ないことにも起因すると考えられる。

本調査の準備段階では、これら画家に関する一次資料は、同資料室のほか、調査先である国立美術館資料室とロダン美術館、さらに今回は展覧会時期の都合から訪問を断念せざるを得なかった、ウジェーヌ・カリエール美術館（パリ郊外グルネー）が所有していることが知られていた。しかし、作成・公開されている資料目録は全体の一部にとどまるため、実際に訪問して目録を閲覧したうえで資料を調査したり、目録化されていない部分の資料から関係事項を探する必要があった。オルセー美術館資料室では、同資料室のカリエール資料目録と、国立美術館資料室所蔵の資料目録とを保管していた。実際、今回の調査中にまずそれらの目録を閲覧し、資料閲覧願を職員の方に提出した際、特定した箇所が国立美術館資料室の方に含まれるものであったことが判明した。そのため、翌日オルセー所蔵の資料目録を送付頂いたことで一覧を参照しながら内容を検討することができた。

この一次資料集には、画家や周辺人物による著作、定期刊行物や画家の家族の書簡などが含まれている。今回同館の資料からは、他では見られない家族の書簡を中心に閲覧した。とりわけ作品の受容、来歴に関わる家族の作品継承について、直接的な事柄は含まれなかったものの、他の所蔵先資料室と合わせて概要を把握することができ、また家族に関する全体的な情報を得られた。それによって、一つ目の作品関連資料から、作品とその研究状況への理解が深まったことに加えて、調査中に専門家の方々から有益なかたちで情報提供頂くことにつながった。

## 2.2 プティパレ・パリ市立美術館資料室

オルセー美術館資料室と同様に、プティパレ・パリ市立美術館資料室（Centre de ressources documentaires, Petit Palais, Musée des Beaux-Arts de la Ville de Paris）では、同館の所蔵する作品関連の資料集を閲覧することが可能である。報告者は昨年には、同館所蔵の画家ヴェイヤールの作品に関して調査を行っていた。本調査ではとりわけ、パリ十二区庁舎祝祭の間のための装飾としてカリエールが制作しながら未完となり、現在プティパレ・パリ市立美術館に所蔵されている《人生の諸段階》連作の関連資料を閲覧することを目的としていた。それに加えて、同じ画家の重要な装飾画のひとつである、パリ市庁舎学問の間の隅柱装飾に関連する資料と、さらに作家ごとに整理された資料集のなかから、画家カリエール関連の資料を提供頂いた<sup>3</sup>。

## 2.3 ロダン美術館資料室

ロダン美術館資料室（Bibliothèque, Musée Rodin）は、彫刻家オーギュスト・ロダン（1840-1917）に関する、同時代から現在に至るまでの様々な資料を保管しているが、それに限らずロダンと同時代の芸術家や蒐集家に関わる資料も所有している。今回の調査では、同資料室に保管されている画家カリエールの書簡や、カリエールに関する記事の掲載された新聞・雑誌などの一次文献を閲覧することが主な目的であった。始めに、資料室研究員の方から同資料室の収集・保管している資料の特性、すなわちロダンとの関わりという観点から同時代芸術家関連の資料が集められている、という点を説明頂いた。それから、本調査ではカリエールについて、とりわけ装飾画及び人物像による象徴表現に関心を持っていること、さらに作品来歴研究との関連から、画家没後の家族への作品継承についても調査している旨をお伝えし、情報を提供頂くことができた。まず重要なレファレンスとして、東京とパリで行なわれた展覧会図録<sup>4</sup>のほかに、同館研究員の方が近年出版された、二人の彫刻家ロダンとブルデルの書簡に関する書籍<sup>5</sup>を挙げ、該当箇所を説明下さったのち、同資料室で保管しているカリエール関連資料を教えて頂いた。

カリエール関連の資料は、作家に関する全般的資料集、書簡、新聞雑誌記事の三種類にわたった<sup>6</sup>。同資料室での調査は、滞在期間のうち約三日間かけて行ない、これらの資料を閲覧複写させて頂いた。資料室の特性による偏りがあるとは言え、ここではまとまったかたちで貴重な一次資料を閲覧するこ

とができ、重要な情報が得られたため、今回最も成果の得られた調査先のひとつであったと言える。書簡に関しては、先に述べたようにオルセー美術館及び国立美術館の資料室にも分散しており、部分的な調査であったが、とりわけ定期刊行物に関しては、年代別にまとめられた網羅的な資料を閲覧できたことで、記事内容の変遷を概観することができた。さらに複写ではなく手稿・記事などの原本であったため、比較的読みやすいという利点もあった。

#### 2.4 国立美術館資料室

国立美術館資料室(Bibliothèque centrale des Musées nationaux)では、先に挙げたカリエール関連書簡を閲覧することを第一の目的とした。ここでも、まず司書の方から所蔵されている資料についてご説明頂いたのち、始めに資料目録、次に該当する手稿を閲覧した<sup>7</sup>。同資料室は、オルセー美術館資料室とともに、画家カリエール自身が記した原稿、カリエール執筆の手紙、またカリエール宛の手紙を保管している。こうした資料の一部はこれまで先行研究のなかで言及されており、内容が知られている<sup>8</sup>。書簡の多くはいまだ活字化されたことがなく、目録を見ることで宛名と主題や言及のある人名などを知ることができ、大体的内容を推測できるという状態であった。しかし司書の方が説明下さったように、この目録も部分的なものであった。

同時代の文筆家や批評家、あるいは政治家らとのやりとりが記されたこれらの資料は、これまで十分に研究されてきたとは言えないが、当時画家をとり巻いた社会的文化的環境を知ることのできる重要な記録である。なかでもメナール＝ドリアン夫人との書簡はとりわけ豊富に残されており、特筆されるのだが、これらの内容に関する研究はこれまでなされていない。このような記録を読み解き、同時代の文脈に照らして画家の位置づけを改めて考えなおすことは、たしかに当時のフランス社会の政治的文化的側面について深い理解を要する難しい課題である。しかし、画家の作品の表現や形式のあり方を考えるうえで大変重要な側面であり、現在要請されているテーマであると言えるだろう<sup>9</sup>。本調査ではこうした包括的な研究に踏み込むことはかなわないものの、当時の社会背景と画家の位置づけというテーマは、本研究において人物像を用いた象徴主義的表現、あるいは装飾画という形式の作品を成立させている背景として、今後一つ一つの作品を具体的に検討しながら考察を進めてゆく必要がある。そのための資料を現地で得られたことが今回の調査の収穫であった。

#### 2.5 国立美術館文書館

国立美術館資料室に加えて文書館(Archives des Musées nationaux)では、美術館行政資料のなかからロダン美術館に関する資料を閲覧した<sup>10</sup>。今回の調査は、複数の資料室にわたっている様々な記録のうち、どのような資料が含まれているのかを確認することが目的であった。ここでは、公開されている目録によって、所蔵されている資料の種類及び年代などの概要を知ることができるが、含まれる資料の内容、時期、分量などは実際に閲覧をして初めて分かることであった。今回の調査では、上記の国立美術館資料室にある個人別の資料集には含まれない、カリエール作品の来歴などに関する情報を探すために調査を試みたが、主にロダン美術館の美術館行政関係資料は分量も限られており、ここから具体的な情報を得ることはかなわなかった。

#### 2.6 パリ古文書館

パリ古文書館(Archives de Paris)では、カリエール作品の来歴を調べるために競売記録の調査を試みた。結論から記すと、同館の調査では、閲覧の結果、当該の記録が同館の保管する文書集の箱から欠落していたという事実が判明し、具体的情報としての成果を得ることはできなかった。ここでは、まず利用者登録ののちに職員の方と面談を行ない、今回探しているカリエール作品の競売記録が同館の資料のなかに含まれるかを確認した。そこでは、知られていた競売吏二人のうち、片方の競売吏については該当する年代の記録を有していることが分かり、含まれると考えられる箱を調査したところ、調べていた競売自体の記録は含まれていなかった<sup>11</sup>。探していた記録の欠落は非常に残念なことであったが、同年代の資料を閲覧できたため、どのように記録が残されているか、そこからどのような情報を知り得るかということを実際に訪れて確認できたということは、今後別の調査を行なってゆくうえで有益であると感じた。司書の方からも、この記録に残されていなければ何らかの時点で欠落してしまい、他に考えられるアーカイブなどもないので競売時の目録が残された情報であろうと助言を頂いた。

#### 2.7 学士院図書館

学士院図書館(Bibliothèque de l'Institut de France)では、同館に保管されている画家 E. ヴェイヤールの日記の調査を行なった。この資料に関して報告者は先述の修士論文において詳細に扱ったため、本報告では簡単な記述にとどめるが、本調査では主に日記四巻のうち冒頭の素描を豊富に含む部分を閲覧した<sup>12</sup>。これらは昨年に行なった調査では不十分であった箇所であり、また、既に先行研究において記述が研究されてきたことと比較すると<sup>13</sup>、これらの図像はいまだ美術史的な検討の余地を残していると考えられる。日記は、資料の保護の観点から通常原本ではなくマイクロフィルムの閲覧・

複写となる。実際に閲覧しながら印刷の具合を調節することによってより鮮明な図像を得られた。今回の調査では、画家ヴイヤールが記録に残した図像のうち、とりわけ当時の社会の様子を示すと考えられるイメージ、例えばエッフェル塔やその他の博覧会関連の建築物と考えられる箇所などを中心として調査を行ない、今後分析してゆくための資料を得た。

## 2.8 ソルボンヌ大学図書館

ソルボンヌ大学図書館 (Bibliothèque interuniversitaire Sorbonne) では、主にこれまで述べた資料室で調査を行なった資料を分析してゆくために参考となる、二次文献や先行研究としての博士論文の所在を調査し、閲覧した。二次文献として、第三共和制期フランスの美術行政に関する研究書、博士論文としては、フランス 19 世紀末の象徴主義をめぐる近年の研究を参照した。これらは調査研究の背景として重要な事柄であるが、閲覧の機会が限られているうえ、添付資料などが大部のものも多く複写の取り寄せが困難なため、今回現地でまとまった調査を行なったことによって今後の研究方針に役立てることができた。

## 2.9 国立美術史研究所図書館

国立美術史研究所図書館 (Bibliothèque de l'Institut National d'Histoire de l'Art) では、前項と同様に二次文献を参照することのほかに、競売目録を対象とした調査を行なった。同館では、蒐集家であったジャック・ドゥーセのコレクションに由来し、さらに今日まで拡充されている競売目録の資料を有している。その一部は電子化されているが、いまだウェブ上で閲覧不可能なものについて、本調査ではマイクロフィルム資料の閲覧・複写を行なった。まず所蔵目録及びレファレンス資料から競売の基本事項を調べたのちに、これらの資料を閲覧した。作品の来歴を知ることによって、個々の作品の由来や、制作あるいは発表後の 20 世紀にまたがる受容の側面を明らかにすることが可能となる。カリエール作品の競売への出品記録は、近年刊行されたカタログ・レゾネに記載されている<sup>14</sup>。しかし、レゾネに掲載のない作品の由来に関わる情報や、競売の詳細について知るためには、競売目録を調査することが有効だと考えられる。本調査では、競売への出品記録が知られていた作品については、競売開催時の記録や他に出品されていた作品の情報を得ることができ、また、記録のない作品の由来について知るために、画家の家族への継承や家族のコレクションであった作品の競売などに関して資料を得ることができた。

## 2.10 フランス国立図書館

フランス国立図書館 (Bibliothèque nationale de France) では、主として画家と同時代から 20 世紀初頭にかけて行なわれた展覧会の図録や同時代書籍の調査を行った。これらは、次第に電子化されつつあるとは言え、とりわけ日本では閲覧し難いものであり、まとまった調査を行なうことによって、当時画家をとり巻いた人物たちや同時代動向に関し、大まかな全体像を把握できたと言える。今後の課題は、これらの図書館で得られた研究状況を参照しながら、主に資料室で得た図像・文献資料を整理し、個々の作品の分析を進めてゆくことである。

これらの文献調査は、主に国立図書館フランソワ・ミッテラン館 (Site François-Mitterrand) で行なったが、それに加え、リシュリユー館内に位置する版画写真部門及びその保存室 (Estampes et photographie/ - Réserve) において、競売目録及び版画作品の閲覧を行なった。前項でも述べた競売目録は、1800 年から 1913 年の時期のものに関しては、国立図書館のデータベース上で電子化されている。ところが今回、前項の INHA 図書館で閲覧した目録のうち同じ目録の別版が版画写真部門に所蔵されていることが分かったため、調査を行なった。ここでは、先に述べたパリ古文書館にてさらなる情報が得られなかった競売の調査を試みたが、別版においてもなお、さらに詳細な情報を得ることはかなわなかったため、この競売とは別の側面から研究を進めてゆくことが必要とされた。保存室では、目録上では所蔵する作品名の不明なものを含めて、カリエールの制作したリトグラフを閲覧し、撮影を行なうことができた<sup>15</sup>。また、初期の展覧会図録の一部は、別館であるアルスナル館 (Bibliothèque de l'Arsenal) にて調査を行なった。

## 3. まとめと今後の課題

以上のように本調査は、資料収集と手法獲得の両面で意義深いものとなった。なお、得られた文献・図像資料をもとにした研究は今後さらに深めてゆく必要がある。したがって本調査は、博士論文執筆にむけた初年度の調査研究として、今後につながる成果を得られるものであったと言える。今回の調査結果をふまえた研究成果は、今後学会発表や論文投稿のかたちで公表する予定である。

本調査は、「女性リーダーを創出する国際拠点の形成」プロジェクト「学生海外派遣」プログラムの助成を受けて実現した。調査の遂行にあたり、国立西洋美術館研究員の先生方、ウジェーヌ・カリエール友の会代表シルヴィ・ル・グラチエ氏より貴重な情報をご提供頂き、また各美術館資料室研究員、図書館司書の方々から懇切なご協力を頂いたことを記し、心より感謝を申し上げる。

## 注

1. 平成 26 年 1 月お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科提出修士論文。
2. Archives Carrière, ODO 2006-5.
3. Dossiers : ppp. 415-418, 3358-3359/ 384, 4486-4491/ Eugène Carrière.
4. 大屋美那『ロダンとカリエール』展図録、東京：国立西洋美術館、2006 年./ Mina Oya, Antoinette Le Normand-Romain et Rodolphe Rapetti, *Auguste Rodin, Eugène Carrière*, cat.exp., Paris : Flammarion, Musée d'Orsay, 2006.
5. Colin Lemoine et Véronique Mattiussi, *Correspondance : 1893-1912 / Rodin, Bourdelle*, Paris : Gallimard, 2013.
6. Dossiers : Documentation générale, Correspondance et Presse.
7. Cotes : Ms 344(02), 375(1)(5,1)(6,1), 425(1)-(5) et 470(2).
8. 代表例として、Valérie Bajou-Charpentreau, *Eugène Carrière : portrait intimiste 1849-1906*, Lausanne : Editions Acatos, 1998.
9. この点に関してはパリ第一大学のエマニュエル・ペルノー教授及びカトリーヌ・メヌー先生よりご教示頂いた。
10. Cote : U-Rodin.
11. Commissaire-priseur, M. Baudoin, cote : D48E3 97.
12. *Journal du peintre, Edouard Vuillard*, Cote : Ms 5396(2).
13. Marie Court, *Vuillard : les années de jeunesse vues à travers les carnets de l'Institut*, avec transcription, mémoire de maîtrise d'histoire de l'art sous la direction de Jean-Paul Bouillon, Clermont-Ferrand : Université Blaise-Pascal, 1992., Françoise Alexandre, *Edouard Vuillard : carnets intimes (1885-1905 et 1er janvier 1914 - 11 novembre 1918) : édition critique avec présentation, notes, annexes et bibliographie*, Thèse de doctorat, Littérature française, Université Paris 8, 1998.
14. Véronique Noa-Milin, *Eugène Carrière 1849-1906 : catalogue raisonné de l'œuvre peint*, Paris : Gallimard, 2008.
15. Cote : Réserve AA-4 (Carrière, Eugène).

## 参考文献

- 大屋美那 (2006)『ロダンとカリエール』展図録、東京：国立西洋美術館。/ Oya, M., Le Normand-Romain, A. et Rapetti, R. (2006) *Auguste Rodin, Eugène Carrière*, cat.exp., Paris : Flammarion, Musée d'Orsay.
- フジテレビギャラリー企画室 (1970)『ウジェーヌ・カリエール』展図録、高階秀爾監修、大阪：サンケイ新聞社・大阪新聞社、東京：サンケイ新聞社・フジテレビ。
- Bantens, R. J. (1983) *Eugène Carrière, his work and his influence*, originally presented as the author's thesis, Pennsylvania State, 1975, Ann Arbor, Mich.: UMI Research Press.
- Boime, A. (1971) *The Academy and French painting in the nineteenth century*, London, New-York : Phaidon.  
(アルバート・ボイム著『アカデミーとフランス近代絵画』森雅彦、阿部成樹、荒木康子訳、三元社、2005.)
- Mainardi, P. (1993) *The end of the Salon : art and the state in the early Third Republic*, Cambridge : Cambridge university press.
- Alexandre, A. (1900) *Exposition de 1900. L'Œuvre de Rodin*, préfaces de Carrière, Jean-Paul Laurens, Claude Monet, A. Besnard, cat.exp., Paris : Société d'édition artistique.
- Alexandre, A. (1906) *Eugène Carrière*, Paris : Bernheim-Jeune.
- Bajou-Charpentreau, V. (1998) *Eugène Carrière : portrait intimiste 1849-1906*, Lausanne : Editions Acatos.
- Bénédicté, L. (1912) *Les artistes*, Paris : A. Colin.
- Bénédicté, L. (1919) *Catalogue sommaire des œuvres d'Auguste Rodin et autres œuvres d'art de la donation Rodin*, Paris : impr. Frazier-Soye.
- Bénédicté, L. (1926) *Catalogue sommaire des œuvres d'Auguste Rodin et autres œuvres d'art de la donation Rodin*, Paris : Musée Rodin.
- Bibliothèque nationale (1980) *Visages d'Eugène Carrière*, cat.exp., Paris : Bibliothèque nationale.
- Carrière, E. (1907) : *Ecrits et lettres choisies*, Delvolvé, J. éd., Paris : Société du "Mercure de France".
- Carrière, J.-R. (1966) *De la vie d'Eugène Carrière : souvenirs, lettres, pensées documents*, Toulouse : E. Privat.
- Delteil, L. (1913) *Le Peintre-graveur illustré (XIXe et XXe siècles). Tome VIII. Eugène Carrière*, Paris.
- Denoinville, G. (1900) *Sensations d'art*, 3e série, Paris : V. Villerelle.
- Denoinville, G. (1909) *Sensations d'art*, 7e série, Paris : Dujarric.
- Faure, E. (1908) *Eugène Carrière, peintre et lithographe*, Paris : H. Floury.

- Florisonne, M., Leymarie, J. et Huyghe, R. (1949) *Eugène Carrière et le symbolisme*, cat.exp., Orangerie des Tuileries, Paris : Editions des Musées nationaux.
- Geffroy, G. (1891) *Exposition de tableaux esquisses et dessins par Eugène Carrière*, cat.exp., Paris : E. Ménéard.
- Geffroy, G. (1902?) *L'œuvre de E. Carrière*, Paris : H. Piazza.
- de Hureaux, A. D. (1989) *Le Symbolisme dans les collections du Petit Palais*, cat.exp., Musée du Petit Palais, Paris : Paris-musées.
- de Juvigny, S., Lévy, N. et Le Gratiet, S. (1996) *Eugène Carrière : le peintre et son univers autour de 1900*, cat.exp., Saint-Cloud : Musée de Saint-Cloud.
- Laffon, J. (1981) *Catalogue sommaire illustré des peintures, Palais des beaux-arts de la Villes de Paris (Musée du Petit Palais)*, Paris : Ville de Paris.
- Lambeau, L. (1919) *L'Hôtel de ville de Paris*, Paris : Impr. de Chaix.
- Lemoine, C. et Mattiussi, V. (2013) *Correspondance : 1893-1912 / Rodin, Bourdelle*, Paris : Gallimard.
- Lugt, F. (1987) *Répertoire des catalogues de ventes publiques intéressant l'art ou la curiosité. Quatrième période 1901-1925*, Paris : Fondation Custodia.
- Méneux, C. (2008) *Regards de critiques d'art : autour de Roger Marx, 1859-1913*, postface de Pierre Vaisse, Rennes : Presses universitaires de Rennes, Paris : Institut national d'histoire de l'art.
- Morice, Ch. (1906) *Eugène Carrière*, Paris : Société du Mercure de France.
- Musée des beaux-arts de Montréal (1995) *Paradis perdus : l'Europe symboliste*, cat.exp., Montréal : Musée des beaux-arts, Paris : Flammarion.
- Noa-Milin, V. (2008) *Eugène Carrière 1849-1906 : catalogue raisonné de l'œuvre peint*, Paris : Gallimard.
- Pascal, J. (1904) *Le Salon d'automne en 1904, avec notices sur les peintres Renoir, Odilon Redon, Paul Cézanne, Toulouse-Lautrec, Puvis de Chavannes et Eugène Carrière*, Paris.
- Petit Palais (1986) *Le Triomphe des mairies : grands décors républicains à Paris, 1870-1914*, cat.exp., Paris : Musée du Petit Palais.
- Petit Palais (1998) *D'Ingres à Cézanne : le XIXe siècle dans les collections du Musée du Petit Palais*, cat.exp., Paris : Musée du Petit Palais.
- Rapetti, R., Geyer, M.-J. et Salé, M.-P. (1996) *Eugène Carrière, 1849-1906*, cat.exp., Paris : Editions de la Réunion des musées nationaux, Strasbourg : Musées de Strasbourg.
- Roger-Marx, C. et Oulmont, Ch. (1970) *Eugène Carrière, 1849-1906*, cat.exp., London : Marborough fine art.
- Séailles, G. (1901) *Eugène Carrière, l'homme et l'artiste*, Paris : E. Pelletan.
- Séailles, G. (1907) *Exposition de l'œuvre de Eugène Carrière au Palais de l'École nationale des beaux-arts, quai Malaquais. Mai-juin 1907*, cat.exp., Paris : G. Petit.
- Séailles, G. (1911) *Eugène Carrière : essai de biographie psychologique*, Paris : A. Colin.
- Vachon, M. (1905) *L'Hôtel de ville de Paris, 1535-1905*, Paris : Plon-Nourrit.
- Vaisse, P. (1995) *La Troisième République et les peintres*, Paris : Flammarion.
- Bulletin de la Société des amis d'Eugène Carrière*, Gournay-sur-Marne : Société des amis d'Eugène Carrière, 1996-2013.

はらだ かおり／お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科 比較社会文化学専攻

### 指導教員によるコメント

原田佳織さんは学部より研究テーマとしてきた 19 世紀末フランスの象徴主義と美術の研究を発展させ、現在博士論文のテーマとして画家ウジェーヌ・カリエールを中心に「人生の諸段階」の主題の研究を進めている。今回の調査では、この研究に必要な基本的な一次および二次資料の収集が主な目的であった。報告書からは、原田さんが出発前に明確な調査目的を掲げて関連箇所にあたり、非常に周到な下準備を行い、その結果現地において重要な資料の所蔵研究機関を的確に調査し、短期間にきわめて充実した成果を挙げていることがわかる。十分な下調べと研究対象に対する深い理解にもとづいて、資料を適切に収集し、調査結果を正確に評価しており、また現地の資料担当者や専門家とのやりとりの中でさらに理解を深めている様子も伺われる。原田さんが今回の成果を今後の研究に有益な形で結びつけて行きうることは確実であり、海外派遣の機会がきわめて有意義に活用されたとみなすことができる。

(お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科 (文化科学系)・天野 知香)

- 
- <sup>1</sup> 平成 26 年 1 月お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科提出修士論文。
- <sup>2</sup> Archives Carrière, ODO 2006-5.
- <sup>3</sup> Dossiers : ppp. 415-418, 3358-3359/ 384, 4486-4491/ Eugène Carrière.
- <sup>4</sup> 大屋美那『ロダンとカリエール』展図録、東京、国立西洋美術館、2006 年。Mina Oya, Antoinette Le Normand-Romain, Rodolphe Rapetti, *Auguste Rodin, Eugène Carrière*, cat.exp., Paris, Flammarion, Musée d'Orsay, 2006.
- <sup>5</sup> Colin Lemoine, Véronique Mattiussi, *Correspondance : 1893-1012 / Rodin, Bourdelle*, Paris, Gallimard, 2013.
- <sup>6</sup> Dossiers : Documentation générale, Correspondance et Presse.
- <sup>7</sup> Cotes : Ms 344(02), 375(1)(5,1)(6,1), 425(1)-(5) et 470(2).
- <sup>8</sup> 代表例として、Valérie Bajou-Charpentreau, *Eugène Carrière : portrait intimiste 1849-1906*, Lausanne, Editions Acatos, 1998.
- <sup>9</sup> この点に関してはパリ第一大学のエマニュエル・ペルノー教授及びカトリーヌ・メヌー先生よりご教示頂いた。
- <sup>10</sup> Cote : U-Rodin.
- <sup>11</sup> Commissaire-priseur M. Baudoin, D48E3 97.
- <sup>12</sup> *Journal du peintre, Edouard Vuillard*, Cote : Ms 5396(2).
- <sup>13</sup> Marie Court, *Vuillard : les années de jeunesse vues à travers les carnets de l'Institut*, avec transcription, mémoire de maîtrise d'histoire de l'art sous la direction de Jean-Paul Bouillon, Université Blaise-Pascal, Clermont-Ferrand, 1992., Françoise Alexandre, *Edouard Vuillard : carnets intimes (1885-1905 et 1er janvier 1914 - 11 novembre 1918) : édition critique avec présentation, notes, annexes et bibliographie*, Thèse de doctorat, Littérature française, Université Paris 8, 1998.
- <sup>14</sup> Véronique Noa-Milin, *Eugène Carrière 1849-1906 : catalogue raisonné de l'œuvre peint*, Gallimard, 2008.
- <sup>15</sup> Cote : Réserve AA-4 (Carrière, Eugène).

## Aspects of creation and reception of Symbolism in the fin-de-siècle France: E. Vuillard and E. Carrière

Kaori Harada

The aim of this study is to examine the artistic, historical and social context of the activities by two artists of Symbolism in the fin-de-siècle France, E. Vuillard (1868-1940) and E. Carrière (1849-1906), from the aspects of the creation and the reception of their works.

I conducted the research on their own remarks and the critical reception in the 1890s, particularly concerning the figures and their decorative works, as well as the materials related to the provenance of their paintings, at five museum archives, four libraries and a public archive in Paris. As a result, the iconographic data, the manuscripts and the articles in press of that time were collectively gathered.